

飛び交う水しぶき

7月20日(月)、神割崎キャンプ場において水ふうせんを使ったスポーツ「水風戦」が開催されました。宮城県では初めての開催となる今回、8つのチームが参加しました。水風戦は、東日本大震災をきっかけに福島を訪問したボランティア団体が考案し、福島発祥のスポーツ競技として広め、被災地に経済発展を促すことを目的として生まれたそうです。勝利条件は、相手コートにある浮き輪のシャチを持ち上げるか、相手選手全員が退場した場合です。参加者は水ふうせんを投げ合い、熱戦を繰り広げていました。



JA南三陸本店・志津川支店 落成祝賀会



JA南三陸本店・志津川支店完成

7月21日(火)、南三陸ホテル観洋において東日本大震災で被災したJA南三陸本店と志津川支店の新店舗の落成祝賀会が行われました。住民サービスの早期再開のため、一足早い6月29日(月)に志津川廻館地内の現地においてオープンセレモニーが行われ、多くの住民に利用されています。今回の完成により、同農協の被災した拠点施設の復旧はすべて完了しました。

夏休み防災行政無線放送

町では、防災行政無線放送で、夏休み中の子どもたちが安全に帰宅できるようアナウンスをしています。

今回は歌津中学校の畠山龍也さんが協力してくれましたので、お話を聞きました。

今回、放送を担当することになったきっかけは？

放送委員会に所属しており、普段の放送の声が良いことから先生に推薦されました。

録音が終わった感想は？

来る前に練習していましたが、緊張しました。普段の放送とはちょっと違うと感じました。

今後の抱負を教えてください。

志望する高校に合格することです。

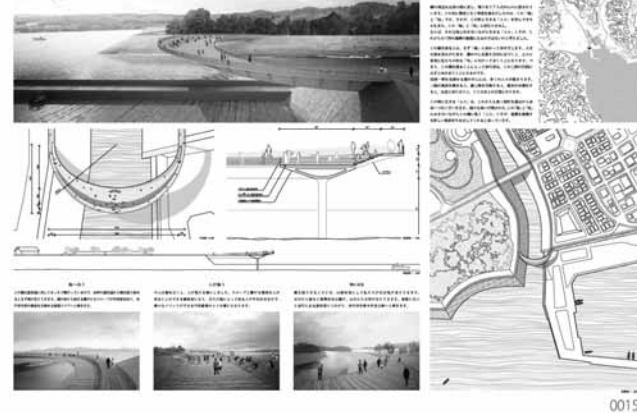


南三陸町 復興の橋 デザインコンペ ～二次審査で優秀賞2作品が選ばれました！～

志津川地区八幡川の河口部付近に架ける人道橋を対象とした「南三陸町『復興の橋』デザインコンペ」の公開二次審査を7月19日(日)に開催し、優秀賞として2作品が選定されました。

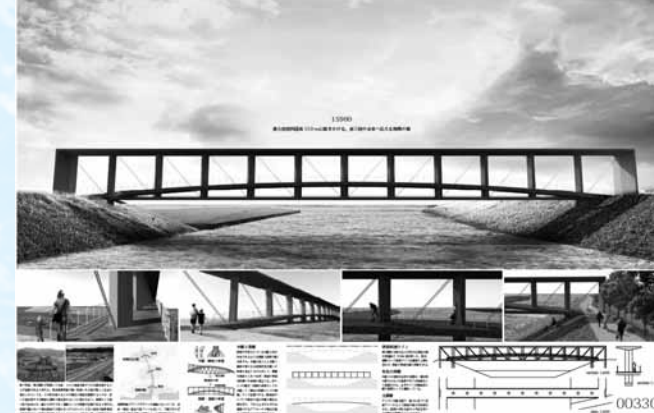
当初は最優秀賞1作品に絞り込む予定でしたが、審査員の票が集中した2作品においても、それぞれで周辺事業との調整やコスト等の面で検討すべき事項が残ったため、町が引き継いで実現性も踏まえた検討・精査を進め、審査員のアドバイスもいただきながら最終的な採用案へと絞り込んでいくこととなりました。

優秀賞



森創大、蛭川結 (nmstudio)
南三陸の自然と向き合い、集う橋

優秀賞



堀越一希 (東京理科大学大学院)
15900 津波の記憶を未来へ伝える橋

◎審査員講評

隈研吾 (審査委員長 東京大学教授)	平野勝也 (東北大学准教授)	佐藤仁 (南三陸町長)
森・蛭川案は町全体を考えた大きな回遊性、アーバンデザインとしての橋という点で今までにないような新しさを感じました。 堀越案は津波の記憶と橋のデザインを組み合わせ、歴史や記憶の残し方としてよいセレクションだと思います。 2案とも力強い案なので、どちらを実現するにせよ、ふさわしい案が選ばれたと思います。	森・蛭川案は「体験」ということが素直に表現されていて評価しました。この町のシンボルである海を眺められる場所を曲線という形で持ち込み、海を見るという「体験」ができるスペースをつくったことに感心しました。 堀越案は構造が全面に出ていて、表現が強すぎるという気はしたのですが、フレーミングをして内と外の風景を切り取っているところと、津波の高さを表現しているところがストイックでよかったです。	この町にどのような回遊性を生み出すのかという点で、復興の橋は南三陸町志津川地区にとって重要な橋で、そういった観点から公募させていただきました。今日、このように優秀賞2組を決定することができ、感慨ひとしおです。 また、ご参加いただいた応募者の方や関係者のみなさまにも、こういう橋になったんだなということを含めて、南三陸町に足を運んでいただければと思います。



※作品の閲覧については、復興市街地整備課復興都市整備係 (☎46-1382)まで